

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-032504

(43)Date of publication of application : 03.02.1998

(51)Int.Cl. H04B 1/10
H04B 1/26
H04L 7/00

(21)Application number : 08-184597

(71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD

(22)Date of filing : 15.07.1996

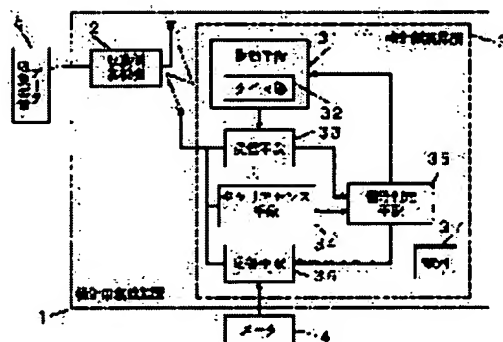
(72)Inventor : MATSUMURA TERUE
HORIIKE YOSHIO
SUEMATSU TAKAYUKI

(54) RADIO EQUIPMENT

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve receiving by starting the reception of a demodulated signal when the intensity of a radio signal becomes higher than a reference value and stopping signal reception when a period in which intensity is higher than the reference continues for more than a enough time to judge abnormality with respect to the abnormality of receiving at an early stage to stop receiving operation.

SOLUTION: A carrier sensing means 34 measures the intensity of a received radio wave to compare a prescribed level (Es). When a receiving means comes into a receivable state and the means 34 detects a carrier, a signal judging means 35 analyzes a demodulated signal from the means 33 to execute bit synchronization detection, frame synchronization detection and request signal reception. When the means 35 confirms the request signal, an answering means 36 sends a meter inspecting value data from a meter 4 to a radio equipment 2 on a collecting side as a response signal. The equipment 2 receives this response signal and stores meter inspection value data in a data collecting device 5.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

られる期間内に受信強度が判定値以下となる期間が連続して所定の期間以上となった場合にフレーム同期後出および駆動手段を介して前記受信手段の動作を待機状態とする無線装置。

【請求項11】 信号判定手段は、車両等の通行によるフェージングの継続時間である、影響範囲（距離）と車両等の移動速度の両以上の時間を判定時間とし、受信強度が連続して判定値以下となる時間の判定を行う請求項1、3または7記載の無線装置。

【請求項12】 信号判定手段は、車両等の通行によるフェージングの単位時間当たりの発生頻度（時間）である、影響範囲（距離）と車両等の移動速度の両と単位時間の通行量の両以上の時間を判定時間とし、単位時間当たりの受信強度が判定値以下となる時間の判定を行う請求項1、4または8記載の無線装置。

【請求項13】 信号判定手段は、フレーム同期信号とビット同期信号の符号間距離と、1ビットのビット長の積以上の時間を判定時間とし、受信強度が連続して判定値以下となる時間の判定を行う請求項5または9記載の無線装置。

【請求項14】 信号判定手段は、受信信号として入力される符号列とフレーム同期信号を比較し、密通ビット数が所定されている範囲より数以内であればフレーム同期後出と判定し、受信強度が連続して判定値以下となる時間の判定を、この所定されている範囲より数と1ビットのビット長の積以上の時間を判定時間として行う請求項5または9記載の無線装置。

【請求項15】 信号判定手段は、単位時間に対しフレーム同期信号長と、フレーム同期信号とビット同期信号の符号間距離（ビット）と、フレーム同期信号長（ビット）との積の割合で定められる時間以上の時間を判定時間とし、受信強度が連続して判定値以下となる時間の判定を行う請求項6または10記載の無線装置。

【請求項16】 信号判定手段は、単位時間に対し、フレーム同期信号長と、フレーム同期信号入力の判定において所定されている範囲より数との割合で定められる時間以上を判定時間とし、受信強度が連続して判定値以下となる時間の判定を行う請求項6または10記載の無線装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】
【発明の属する技術分野】 本発明は無線信号も用いて信号のやりとりをする無線装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来より無線装置は信号強度等から信号ありと判断した場合に動作を開始し、特定信号の検出を行いつながら一定時間の経過により信号なしと判断する信号判定手段を用いて構成されていた。特に、検射用無線装置は、こうした方式を省電力の観点から応用し、特定信号の検出を開始してから信号強度を監視し、強度

低下時には直ちにキャリアなしと判断し受信終了する信号判定手段を用いたものもあり、そうした無線装置を用いたものは特開平8-102684号公報に記載されている。この装置は信号判定手段の図10の流れ図に示すように、電圧強度を監視（キャリアセンス）し（step1）、キャリアが検出されなければ受信を終了し（step2から7へ）、電圧ありと判定されればビット同期後出を開始し（step2から3へ）、検出が終了すれば以後の電圧を受信し（step4から5、6のループへ）、データ終了により受信終了（step6から7へ）する。また、ビット同期後出が起きない場合（step4でNの判定）に、規定時間T_hをすぎれば受信を終了して（step8から7へ）待機状態に戻るようになっていた。

【0003】
【発明が解決しようとする課題】 しかしながら上記従来の無線装置では、信号の有無を最初に判断し、以後一定時間の経過のみで受信終了する方式の場合には、最初の信号強度が取れば時間の経過のみで他システム信号かどうかの判定をしているため、いかなる信号であっても必要時間（上記従来のT_h）の受信を待たねばならない。つまり、消費電流の点で無駄が多い構成となっていた。また、信号の有無を瞬時のキャリア判定で行い、キャリアが無くれば受信終了する方式では瞬間的なキャリアレベルの低下や受信強度信号へのノイズの侵入等により、誤判定が起りやすくなり信号受信率が低下するという課題があった。

【0004】 特に検射用無線装置では、検射員が携帯無線機を持ち歩いて手動で検射する場合と電話回線を用いて自動的に検射する2つの形態が一般的だが、どちらも時間当たりの検射件数を高くできなかった人件費または電話回線使用料（電話料金）が高くなり、採算を維持できない。このため、通信の信頼性をできる限り高め、効率的に検射する必要がある。ところが、こうした無線装置は用途上、屋外、道路付近等に取付けられる可能性が高く、家庭内や外の機器等からのノイズ以外に、通行する車やオートバイ、人等からのイグニッションノイズと高い頻度で受け、このノイズをキャリアセンスすることにより受信動作に移行しやすくなっていたり、逆に周囲を車両等が通過することで電波の伝播に影響を受け、電圧強度が一時的に低下するフェージングという現象が発生し、放散されている電波を受信できなくなり、受信不良となる可能性が高い。そこでこうしたノイズの影響を受けず、通信信頼性を向上させることが第1の課題である。

【0005】 一方、こうした装置は、設置場所等の制約から完全密閉型の電池駆動となることが一般的で、長期間（例えばメータ検定期間の10年）の動作保証（メンテナンスフリー）が要望としてある。そして、この要望が達成できなければ、装置を設置した全戸に対してこの保

証期間に応じた頻度で交換作業を行わなくてはならず、装置の費用や交換作業による人件費等が増大することになる。このためできる限り電池寿命の延長を計り、保証期間の延長が必要となるが、上述した増大したノイズやイグニッションノイズを受信してしまうと、その頻度に応じて受信動作による電流消費が増大する。幹線道路付近等、車両の通行量が多い場合には、高い頻度で発生し、電流消費が大きくなるが、こうした条件下での現象であっても、全装置の保証期間が最悪の条件での保証となるため、結果的に保証期間が短くなり、上記の課題が顕著に表れる。また、電圧検出のよいところでは必要以上の頻度で交換することとなり無駄も大きい。ノイズ等不確定要素による受信時間の増加を少なくし、これにより電流増加を少なくかつ条件によらず一定に近づけることが第2の課題である。

【0006】
【課題を解決するための手段】 本発明は上記課題を解決するために信号の受信開始後に受信強度の監視と、判定値以下のレベルが継続した時間の計測を行い、判定時間以上継続して判定値以下のレベルが継続すれば信号の受信を中止するものである。

【0007】 上記発明によれば信号受信開始後に発生する電圧強度の変化を検出し、信号受信処理を中止することができ、

【0008】

【発明の実施の形態】 本発明の無線装置は、無線信号の受信強度が判定値以上となったことにより復調信号の受信を開始し、受信強度が判定値以下となる期間が判定時間以上継続した場合には信号受信を中止するものである。これにより短いノイズにより瞬時に受信終了することがなく、受信強度の異常に対し、早期に異常判定して受信動作を中止することが可能となり受信信頼性の向上が得られる。

【0009】 また、無線信号の受信強度が判定値以上となったことにより復調信号の受信を開始し、受信強度が判定値以下となる期間が単位時間当たり所定の期間以上となった場合に信号受信を中止するものである。これにより短いノイズが頻繁に発生する等の異常に対し、早期に判定して受信動作を中止することができるとなり受信信頼性の向上ができるものである。

【0010】 また、無線信号の受信強度が判定値以上となったことにより復調信号のビット同期後出を開始し、受信強度が判定値以下となる期間が判定時間以上継続した場合にはビット同期後出を中止するものである。これにより短いノイズによりビット同期後出を中断することがなく、受信強度の異常に対し早期に異常判定して受信動作を中止するので、受信率が向上する。特にビット同期後出では、ビット同期後出を複数回実行するために十分なビット同期長を確保されていることが一般的であるため、受信強度以上の発生後も受信を中止しないことによ

る受信信頼性向上の効果が大きい。

【0011】 また、無線信号の受信強度が判定値以上となったことにより復調信号のビット同期後出を開始し、受信強度が判定値以下となる期間が単位時間当たり所定の期間以上となった場合にビット同期後出を中止するものである。これにより短いノイズが頻繁に発生する等の異常に対し、早期に判定して受信動作を中止することができ、ノイズを受信することにより増加する消費電流の低減が可能となるものである。特にビット同期後出では、ビット同期後出を複数回実行するために十分なビット同期長を確保されていることが一般的であるため、受信強度以上の発生後も受信を中止しないことによる受信信頼性向上の効果が大きい。

【0012】 また、ビット同期後出完了により復調信号のフレーム同期後出以上継続した場合にフレーム同期後出を中止するものである。これにより短いノイズによりフレーム同期後出を中断することなく、長いノイズによるパース（繰り返し）発生の可能性を検出し、フレーム同期の継続の可能性を早期に異常判定して受信動作を中止でき、信頼性が向上する。

【0013】 また、ビット同期後出完了により復調信号のフレーム同期後出を開始し、受信強度が判定値以下となる期間が単位時間当たり所定の期間以上となった場合にフレーム同期後出を中止するものである。これにより短いノイズによりフレーム同期後出を中断することなく、こうしたノイズが頻繁に発生する等の異常によるラベリングの可能性を早期に検出し、フレーム同期後出の継続の可能性を早期に異常判定して受信動作を中止することができる。信頼性が向上する。

【0014】 また、ビット同期信号を含むヘンダー信号を付したデータ要求信号を送信し、電圧で駆動される信号に対する応答信号を受信してデータを収集する収信用無線機と、データ要求信号を受信すると検射用無線機は無線信号を受信する受信手段と、受信手段を定期的に駆動する駆動手段と、受信される信号の強度を所定のレベルと比較するキャリアセンス手段と、受信される信号を処理する信号判定手段と、信号判定手段によりデータ要求信号を受信した場合に検射用無線機を無線信号で駆動する検射用無線機とを有しているものである。そして、駆動手段が受信手段を駆動し、キャリアセンス手段がこの受信される信号の強度を測定し、信号判定手段は、受信強度が判定値以上となったことにより受信手段により受信される信号のビット同期後出を開始し、さらにこの間受信強度が判定値以下となる期間が判定時間以上継続した場合にビット同期後出および駆動手段を介して受信手段の受信動作を中止することができ、これによりフェージング等の短ノイズによりビット同期後出を中断すること

がなくなるため、通信の成否率が向上するとともに

に、受信強度の異常に対し早期に異常判定して受信動作を停止するため、ノイズを受信することにより増加する消費電流が低減し電池寿命の延長につながるものである。

【0016】また、駆動手段が受信手段を駆動し、キャリアセンス手段がこの受信される信号の強度を判定し、信号判定手段は、受信強度が判定値以上となったことにより受信手段により受信される信号のビット同期検出を開始し、さらにこの間、予め定められた時間毎に受信強度が判定値以上となる期間を通過し、所定の時間以上となった場合にビット同期検出および駆動手段を介して受信動作の受信動作を中止するため、短いノイズにより受信動作の受信動作を中止することなく、短いノイズにより受信動作の受信レベルが十分取れない場合に受信を中止することができる。これにより電圧消費の異常等により平均受信レベルが十分取れない等の異常に対し、早期に判定して受信動作を停止することができるため、誤判定、誤動作の恐れがなく、受信が向上するとともにノイズを受信することにより増加する消費電流が低減し電池寿命の延長につながるものである。

【0016】また駆動手段が受信手段を駆動し、キャリアセンス手段がこの受信される信号の強度を判定し、信号判定手段は、受信強度が判定値以上となったことにより受信手段により受信される信号のビット同期検出を開始し、さらにビット同期検出されるとフレーム同期検出を開始し、さらにこの間受信強度が判定値以下となる時間が判定時間以上連続した場合にフレーム同期検出および駆動手段を介して受信手段の受信動作を中止するため、受信中の電圧消費の変化により受信を中止することができ、このため短いノイズによりフレーム同期検出を中止することなく、バーストの可能性があることによりフレーム同期の検出の可能性を早期に異常判定して受信動作を停止でき、通信信頼性を向上させ駆動動作の消費電流を低減し電池寿命の延長につながるものである。

【0017】また駆動手段が受信手段を駆動し、キャリアセンス手段がこの受信される信号の強度を判定し、信号判定手段は、受信強度が判定値以上となったことにより受信手段により受信される信号のビット同期検出を開始し、さらにビット同期検出完了により復調信号のフレーム同期検出を開始し、さらにこの間、予め定められた時間毎に受信強度が判定値以上となる期間を通過し、所定の時間以上となった場合にフレーム同期検出および駆動手段を介して受信手段の受信動作を中止するため、平均受信レベルが十分取れない場合に受信を中止することができる。このため平均受信レベルが十分でなく短いノイズが頻発に発生する等の異常によるランダム誤りの可能性とそれによるフレーム同期検出の検出の可能性を早期に異常判定して受信動作を停止することができ、通

信の信頼性が向上するとともに、ノイズを受信することにより増加する消費電流の低減を可能にするものである。

【0018】また、信号判定手段は、車両等の通行によるフェージングの継続時間である、影響範囲（距離）と車両の移動速度の両以上の時間を判定時間とし、受信強度が監視して判定値以下となる時間の判定を行うことにより、付近を車両等が通行することによりフェージングの発生しやすいため、環境下でも継続して受信を中止することがなく、信号受信部が向上する。特にビット同期検出時にこうした手法を取った場合にはビット同期検出が信号の継続している限り受信可能である。

【0019】また、信号判定手段は、車両等の通行によるフェージングの単位時間当たりの発生頻度（時間）である、影響範囲（距離）と車両の移動速度の高と単位時間当たりの通行量の両以上の時間を判定時間とし、単位時間当たりの受信強度が判定値以下となる時間の判定を行うことにより、フェージングが多発し、誤りやすい受信状態である場合に受信を中止することができ、省電力の効果を得られる。

【0020】また信号判定手段は、フレーム同期信号とビット同期信号の符号間距離に相当するビット長以上の時間を判定時間とし、受信強度が連続して判定値以下となる時間の判定を行うことにより、フレーム同期信号検出中のバースト誤りによる誤判定の可能性を早期に判定し受信を中止するため、省電力が可能になると共に、通信信頼性が向上する。

【0021】また信号判定手段は、フレーム同期信号入力力の判定において許容される誤りビット数に相当する時間を判定時間とし、受信強度が連続して判定値以下となる時間の判定を行うことにより、フレーム同期検出において誤りが許容されている場合でもフレーム同期信号検出中のバースト誤りによる誤判定の可能性を早期に判定し受信を中止するため、省電力が可能になると共に、通信信頼性が向上する。

【0022】また、信号判定手段は、単位時間に対し、フレーム同期信号と、フレーム同期信号とビット同期信号の符号間距離に相当するビット長の割合で求められる時間以上の時間を判定時間とし、受信強度が連続して判定値以下となる時間の判定を行うことにより、フレーム同期信号検出中のビット誤りによる誤判定の可能性を早期に判定し受信を中止するため、省電力が可能になると共に、通信信頼性が向上する。

【0023】また、信号判定手段は、単位時間に対し、フレーム同期信号と、フレーム同期信号入力力の判定において許容されている誤りビット数の割合で求められる時間に相当する時間を判定時間とし、受信強度が連続して判定値以下となる時間の判定を行うことにより、フレーム同期検出において誤りが許容されている場合でもフレーム同期信号検出中のビット誤りによる誤判定の可能

性を早期に判定し受信を中止するため、省電力が可能になると共に通信信頼性が向上する。

【0024】以下本発明の無線装置の実施例を図面を用いて説明する。

（実施例1）図1は本発明の実施例1の無線装置における放射用無線装置のブロック図である。また図2、図3は信号の送受信を説明するためのタイミングチャートであり、図4は信号判定手段の動作を示す流れ図である。【0025】図1において、1は放射用無線装置であり、収信側無線機2と放射側無線機3から構成されている。4はメーカであり、このメーカ4の放射側が放射用無線装置1を介してデータ収信装置5に収集されるようになっている。収信側無線機2はヘンダーを含むデータ要求信号を送信し、放射側無線機3は電波である電圧3.7を内蔵し、タイマ部3.2が閉大受信のためのタイミングを作成し、そのタイミングに従って、駆動手段3.1が受信手段3.3の無線信号の復調可能な受信状態にする。3.4と比較するキャリアセンス手段である。3.5は信号判定手段であり、受信手段3.3が駆動手段3.1により受信可能な状態となり、かつキャリアセンス手段3.4によりキャリアが検出されると、受信手段3.3からの復調信号を解析し、ビット同期検出、フレーム同期検出、要求信号の受信を行う。3.6は応答手段であり、信号判定手段3.5で要求信号が検出された場合にメーカ4からの放射側データを受信信号として収信側無線機2に送る。収信側無線機2はこの応答信号を受信し、データ収信装置5に検針データを送信する。

【0026】図2は本実施例の送受信動作を説明するためのタイミングチャートであり、収信側無線機2から送られる信号のブロック構成として「フレーム同期信号aおよびフレーム同期信号bを含むヘンダー信号c」を送り返した後データ要求信号dを付加している。

【0027】次に信号判定手段の詳細な受信動作について図2、図3のタイミングチャートのタイミングに沿って図4の流れ図を用いて説明する。電圧消費を抑えるため駆動手段3.1は収信側無線機2からの信号長に応じたサンプリング周期（Ts）で受信手段3.3を駆動している。受信手段3.3が駆動されるとキャリアセンス手段3.4がキャリアセンスを行い（step1）、キャリアが検出されれば受信動作を終了させ（step1から11へ）、キャリアが検出されれば（step2のYes）タイマスタート時間を初期化して計測開始し（step3）、キャリアを監視しながら（step4、5）、キャリアがあれば時間（step7）、ビット同期が検出されるまで時間Tの経過を監視し（step3）ながら上記作業を継続する（step4から8、13のループ）。なお、このタイマスタート時間はヘンダー信号の構成を基盤にし、その値を決めており、本実施例ではヘンダー長Tbを基盤とする。

【0028】今、他システムからの信号または同期時間のノイズ（真さ）を受信した場合、受信タイミング（3.7）から受信を開始し、ビット同期の検出をおこなう（step7）が、ノイズが終了（3.4）しキャリアが検出されなくなると（step5から12へ）時間Tの計測が通り、この時間Tは、フェージング等による電圧の低下に要する時間を基準にbを小さい値として（3.9）、キャリアの検出されない時間がbを超えると（3.9）、時間T経過以前でも受信動作を終了させる（step12からstep11へ）、これにより復調時間の短いフェージングノイズや雑音からのノイズを早期に受信終了することが可能となる。

【0029】また、ビット同期検出直上に時間T2のフェージングを受けた場合の動作では、受信タイミング（3.7）からキャリアが検出され（step2から3、4、5、6へ）受信を開始し、ビット同期の検出を行う（step7）。ここで、フェージングが発生し（3.4）、キャリアが検出されなくなると（step5から12へ）、時間が計測開始されるが、フェージングが（2（<1b）で終了するため、時間Tの判定（step12）において超過することなく（step12から4へ）、時間Tの経過とともにキャリアが検出され、再度ビット同期検出を行う（step5から6へ）ため無事に受信が可能となる。【0030】なお、bの時間は放射側無線装置に対し、周囲環境の影響範囲（距離）と影響範囲内を移動する車両等の移動移動時間の両者に定まる。例えば道路の上で影響する範囲が3mにわたる、通過する車両の平均速度を60km/hとした場合には、1.8秒間のフェージングが予め予想されるため、0.02秒の設計余裕を取り判定時間bを0.2秒とする。ビット同期信号の検出に0.1秒を要し、ビット同期信号が1秒間送出されるような場合は、信号送出開始後0.5秒経過後に0.15秒のフェージングがあった場合でも受信は終了せず、フェージング終了後ビット同期検出を再開することにより残り0.35秒のビット同期信号で検出可能となる。

【0031】このように短いノイズを受信した場合に、そのノイズの消滅後の受信動作の早期終了を行い、消費電流の削減が可能になる。またフェージング等のノイズに影響されず受信が継続され、信頼性の向上（道路付近に取り付けられた場合でも通信信頼性の低下を少なくすることが可能となる。

【0032】（実施例2）図5は本発明の実施例2の放射用無線装置の信号の送受信を説明するためのタイミングチャートであり、図6は信号判定手段の動作を示す流れ図である。構成、および電圧の構成は実施例1と同一とし、図1、図2を使用する。実施例1と異なる点は、図6に示す信号判定手段の動作であり、ビット同期検出直上でキャリアが検出されなくなった場合（step5のNo判定）、その復調時間Tを計測する（step11）こと

と、この時刻後出発し、単位時間 τ を計測、確認し (step 1.2)、単位時間 τ が経過したら (step 1.2 から 1.3へ) 待望時間 t が所定のしきい値 ($t \geq t_0$) より大であるかどうかを確認し (step 1.3)、大であればまた同様信号の受信を中斷し (step 1.3 から 1.0へ)、小であれば計測中の積算時間 t を初期化する (step 1.3 から 1.4へ) とするところである。なお待望時間 t と共通のものは同一構造を有し、説明は省略する。

【0033】次に信号判定手段のほかに受信動作について図6のタイミングチャートのタイムTに於て図6の流線図を用いて説明する。英簡明と同様に受信手段が受信動作3により駆動されるとキヤリテンスがキヤリテンスを行(1step)、キヤリテンスがキヤリテンスを終了させ(step2から10へ)、キヤリテンスがあれば(step2から3へ)と同一時刻のタイムTと時間Tを初期化して計測開始し(step3)、キヤリテンスを確認しながら(step4、5)とキヤリテンスの検出を開始する(step6)、このタイムTと時間Tは英簡明1回環にT_hを基準とする。

【0033】今、家庭用通信機の使用やワーク・エンバイ
メントからのイデニツク・ソフツウェア (E) の扱い、個人情報が
多発し、キヤリア・コンプライアンス (C) から受信を調
整したとすると、受信タイムラグ (B7) から受信を開
始し、ビット同期の検出 (step6) をおこなうが、パル
ス性のノイズのため、短い周期で受信位置が変動し、時
折キヤリアが検出されず復調時間が、を加重してしま
(step11)。この状態において通信時間 d が経過す
ると (step12から13へ)、復調時間を確認す
ると (step13)。この時間は、しきい値 gap と比較して
おり、キヤリアの検出されなかった時間が gap を超えると
(64)。時間 T は経過し始めて受信位置を終了させる
(step13から10へ)。このように短いノイズが検出
された場合、復調時間の十分検出されない期間が短い場合でも、
通信時間当たりの復調時間で判定するだけ受信中止の判
断が可能となる。

【0036】また、ビット同期抽出送し (step 4 から 7
グループ処理中) にフェージングを受けた場合には、受信
レベル (5) から受信レベルを算出し、ビット同期の抽出
を行う (step 6)、受信強度を算出し、(5エ)、キ
ャリアが抽出されなくなると (step 5 のN判定)、時間
を再算する (step 1) が、フェージングは強度がわか
らなため、単位時間 (1 秒) の時間 (step 1.3)
において、単位値 (1 ms) を超えることがなく抽出送
上で行って受信を待たせると (step 1.3 から 1.0へ移行
する) ことがなくなる。

【0036】なお、psの時間は放射用無線電波伝送局間で発生する可能性のあるノイズについて、パルス幅と発生周期とから算出される計算時間以下または放射用無線電波伝送局とから算出される計算時間以下または放射用無線電波伝送局に対し、周回伝送の影響範囲（距離）と影響範囲内を移動する車両等の位置移動時間の最大値以上に定める。例え

例えば実施例1で説明した検出用無線装置と同様の環境を考えた場合は、周囲環境の影響範囲(距離)と影響範囲内を移動する車両等の開始移動時間、単位時間当たりの速度を考慮して、通過する車両の速度を6.0km/h程度が3mにわたり、通過する車両の速度を6.0km/h

【00337】（実施例3）図7は本発明の実施例2の送信用無線装置の信号の送受信を説明するためのタイミングチャートであり、図8は信号判定手段の動作を示す流れ図である。構成、および電文の構成は実施例1と同一とし、図1、図2を使用する。なお実施例1と共通のものは同一構成をなし、説明は省略する。

(0003) 次に番号判定手段の詳細な受信動作について図7のタイムングチャートのタイミングに沿って図8の流れ図を用いて説明する。受審機1の受信は受信手段3.3が駆動され、ビット同期が検出される(step1)。と、フレーム同期検出までのタイムアウト時間Tの計測を初期化し(step2)、キヤリアを確定しながら(step3、4)フレーム同期の検出を開始する(step6)。次に、収得を中止するためビット同期が0.10の連続の信号に対し、フレーム同期信号は“1100”という4ビットの信号とする。この信号のビット間隔信号と4ビットの信号とする。この信号のビット間隔信号とは符号距離は2ビットであり、2ビット離れた場合には誤検出の可能性がある。キヤリアが正常に入力されている場合にはキヤリア検出不良となるため、この計測を同時に初期化しながら(step5)フレーム同期の検出を待ち(step7)。フレーム同期が確定した場合には(step7)Yes判定で以後の処理を受信し(step8)データ終了にリターン受信を終了する(step9から10へ)。フレーム同

期が確定しない場合には (step 7 No)
ト時間丁がしきい値T (経過により
ep1.2 Yes判定により step 1.0へ)。
タイムアウト時間T (はビット同期
信号の長さの合計を基準にして定め

【0039】今、フェージングが検出された（保さる）に候出されなくない判定、経過時間tの計測、電報No判定）、経過時間は、フレーム同期間距離をビット分の長さとしてキヤリしきい値としており、キヤリアの検出を越えたと（7エ）この間のデータの誤判定の可能性のあるビット数のため判定断りをおこす恐れがあるビットの長さとしてなっているためでも受信動作を終了させる（step1）れにより、異常なフェーディングが現れる場合に受信を終了することとした位置からフレーム同期を検出し、復調が行なくなり、誤動作を防止して実行。なお、通常はフレーム同期した場合でも誤動作を起こさないたは各回の断り制御やデータ復調が行ったことを受信する前に受信を中断するため消費電力の増加を最小限にとどめ電波の低減となる。

【0040】〔実施例4〕図9は本利用無線装置の信号判定手段の動作する構成、および電文の構成は実施例1、図8を使用する。なお実施例1構造を有し、説明は省略する。

【0041】次に信号判定手段の詳細を図9の流れ図を用いて説明する。倍手段3が駆動され、ビット同期判別と、フレーム同期検出までのタ計測を開始し（step2）。キヤリス（step3、4）フレーム同期の後、3.2ビットとし、ビット同期信号とする。フレーム同期後の判定を3して確定させるとすると、3.2ビットと相対出の可能性がある。単位時間（ t_0 ）とし、キヤリア検出しないしきい値を4ビット分の時間（ t_{on} ）が正しく入力されている場合（step6される場合には（step4 No判定）（step10）。フレーム同期が確（g）以後の信号を受信し（9 h）デ

タイムアウトを終了する (step 1) の場合、タイムアウトを越えなければ、タイムアウト時間 (step 14) 、しきい値 T を越え、タイムアウトによりリタイアする (step 9) 。

100042) ところで、周囲環境の環境が悪化した場合、キヤリアの後継発生の頻りが発生しやすくなる。発生したとすると、キヤリアの退出 (step 4) となる (規定) 、経過時間 (step 10) 、この時間には、前述の頻り許容レベルを要しないしきい値 q の間でキヤリアの退出が決定となる。タイムアウトが頻り決定となるときは、タイムアウトでも受信動作を終了する (step 9) 。

[illegible]

図 1 同一とし 20 004.61 倍音定平均は、無効
なものとは同一
動作について
1 の要領で受
けられる (step
1) の時間 T
の動作を行ない
が (step
2) 間隔倍音を
待機して 8 秒
間隔以上は許
容範囲まで静
音以上 40

20 定値以上となったことにより賃働倍
受倍音判定は以下となり賃働倍
受倍音判定を中止する時間、
た場合に賃音受倍を中止するた
号受倍を中断することがなく、受倍
早期に賃音判定して受倍動作を中止
向上する。
004.61 また、無効倍音の受倍
なったことにより賃働倍音の倍音受
度判定値以下となる時間を無効時
以上となる場合賃音受倍を中止
が頻発に発生する等の異常におし
動作を停止するところであるので、

【00047】また、借手判定手数料は、度が判定面以上となったことにより、度以上を課税し、受償強度が判定強度以上を課税した組合に、早期に受償強度の算出に資し、早期に借手判定を中止することなく継続してビツノス出を中止することなく継続してビツノスに對し、繰り返

は単位時間 τ の経過毎に前時間 t の情報、初期化を
行い (step 1. 1, 2, 13), 前時間 t が正しい値
を越えなければ、タイムアウト時間を確認し (step
p14), 正しい値 T 経過により受信を終する (step
p9~)。

【10042】ところで、周囲環境の変化等により、環境が悪化した場合、キヤリアの退出が決定となり、従来のような誤りが発生しやすくなる。今、こうした現象が発生したとすると、キヤリアの退出が断続的にあるとされる（step 10）。この時間には、前述のフレーム同期判定の誤り許容とシフト数以上をきき直しとされており、単位時間ごとの間でキヤリアの退出が一定時間ごと、onを発生するとフレーム同期が判定となる可能性があるため、時間丁（経過以前でも受信動作を終了させる（step 12 から9））。

【0004】これにより、電圧強度の低下や不安定により、判定動作の可能性のある場合に受電を待てることのできるため、受電の位置からフリースペースを放出し、その後の要求信号の受信誤りがなくなり、動作動作を防止し、そのことに役立つ。なお、こうした動作を助けるため、以前の信号には各種の誤り検出やデータ確認が行われているが、この場合でも速い判断で受電を中断することが可能となるため消費電力の増加を最小限にとめることができる。

【0004】

【発明の効果】以上の説明から明らかなように、本発明の無線装置によれば次の効果が得られる。

【0004】信号判定手段は、無線信号の受信強度が特定値以上となったことにより質問信号の受信を抑制し、受信強度が判定値以下となる時間が判定時間以上通続した場合は信号受信を中止するため、短くノイズにより信号受信を中断することがなく、受信強度の異常にに対し、早期に異常判定して受信動作を停止するので、受信音が向上する。

【0004】また、無線符号の受信強度が判定値以上となったことにより該無線符号の信号受信が所定し、受信強度が判定値以下となった場合は受信強度が当該所定の受信強度以上となった場合に該信号受信を中止する。短組ノイズが頻繁に発生する等の異常に対し、早期に判定して受信動作を停止することができると、受信部が向上する。

【00047】また、信号判定手段は、無線符号の受信強度が判定値以上となったことにより該無線符号の信号受信を開始し、受信強度が判定値以下となった場合は判定値以上と該無線符号の受信強度以上と通知した場合にビット同相検出を中止する。また、受信強度の異常に対し、早期に異常判定して受信動作を中止するとともに、短組ノイズによりビット同相検出を停止することなく継続してビット同相検出を行なう。当発明のノイズに対し、繰り返し送られるビット

15

同期の検出が向上し、通信信頼性が向上する。
【0048】また、無線信号の受信強度が判定値以上となつたことにより復調信号のビット同期検出を開始し、受信強度が判定値以下となる時間が単位時間当たり所定の時間以上となった場合にビット同期検出を中止すること、媒体の短いノイズでビット同期検出を中止することなく、短いノイズが頻繁に発生する等の異常に対し、早期に判定してビット同期検出を停止することができ、同期的なノイズに対して、繰り返し送られるビット同期の検出が向上し、通信信頼性が向上する。
【0049】また、ビット同期検出完了により復調信号のビット同期検出を開始し、受信強度が判定値以下となる時間が単位時間以上連続した場合にフレーム同期検出を中止することなく、バースト誤りとなるような長いノイズによるフレーム同期の検出の可能性を早期に異常判定してフレーム同期検出動作を停止できるので、バースト誤りに対するフレーム同期の検出を防ぎ、通信信頼性が向上する。

【0050】また、ビット同期検出完了により復調信号のフレーム同期検出を開始し、受信強度が判定値以下となる時間が単位時間当たり所定の時間以上となった場合にフレーム同期検出を中止すること、媒体の短いノイズによりフレーム同期検出を中止することなく、短いノイズが頻繁に発生する等の異常によるフレーム同期検出の検出の可能性を早期に異常判定して受信動作を停止することができ、ランダム誤りに対するフレーム同期の検出を防ぎ、通信信頼性が向上する。

【0051】また、検針用無線装置において信号判定手段が、無線信号の受信強度が判定値以上となったことにより復調信号のビット同期検出を開始し、受信強度が判定値以下となる時間が単位時間以上連続した場合にビット同期検出を中止することなく、短いノイズによりビット同期検出を中止することなく、短いノイズが頻繁に発生する等の異常によるビット同期検出の検出の可能性を早期に異常判定して受信動作を停止することができ、ランダム誤りに対するフレーム同期の検出を防ぎ、通信信頼性が向上する。
【0052】また、検針用無線装置において信号判定手段が受信強度が判定値以上となったことにより受信手段により受信される信号の同期検出を開始し、さらにこの同期、受信強度が判定値以下となる時間が単位時間たり所定の時間以上となった場合にビット同期検出を中止するため、媒体の短い電界異常や通信量の多い道路に設置

16

された検針用無線装置近傍特有の遅延するフェージングによりビット同期検出を中止することがなく、電波の消滅や電波強度の不安定等の異常に対し、早期に判定してビット同期検出を中止することができ、ランダム誤りによる検出率を下げることがなくなり、受信信頼性、検針効率が高上するとともに、こうしたノイズの受信により増加する消費電流が低減し、電池寿命が延長する。

【0053】また、検針用無線装置において、信号判定手段が受信強度が判定値以上となったことにより受信手段により受信される信号のビット同期検出を開始し、さらにこの間受信強度が判定値以下となる時間が単位時間以上連続した場合にフレーム同期検出および駆動手段を介して受信手段の受信動作を中止するため、短い電界異常によりフレーム同期検出を中止することなく、検針用無線装置の設置環境に起こりやすいフェージングである、バースト誤りとなるような長い電界異常によるフレーム同期の検出の可能性を早期に異常判定して受信動作を停止できるので、バースト誤り発生時にフレーム同期の検出に至ることがなく通信の信頼性向上、特に、フレーム同期位置の誤判定による誤データの発生受信、それによる誤動作、誤集金等の危険がなくなる」とし、早期に受信を終了することにより、ノイズの受信によって増加する消費電流が低減し、電池寿命が延長する。

【0054】また、検針用無線装置において、信号判定手段が、受信強度が判定値以上となったことにより受信手段により受信される信号のビット同期検出を開始し、さらにビット同期検出完了により復調信号のフレーム同期検出を開始し、さらにこの間、予め定められた時間毎に受信強度が判定値以下となる時間を過ぎ、所定の時間以上となった場合にフレーム同期検出および駆動手段を介して受信手段の受信動作を中止するため、媒体の短い電界異常等によってフレーム同期検出を中止することなく、検針用無線装置のように通信量の多い設置環境に起こりやすい、短い電波異常が頻繁に発生する等の異常によるフレーム同期の検出の可能性を早期に異常判定して受信動作を停止することができ、ランダム誤りに対するフレーム同期の検出による誤データの発生受信を防ぎ、それによる誤動作、誤集金等の危険を防ぎ、通信の信頼性が向上するとともに、ノイズを受信することにより増加する消費電流が低減し、電池寿命が延長する。

【0055】また、信号判定手段は、車両等の通行によるフェージングの遅延時間である、影響範囲（距離）と車両の移動速度の両以上の時間を判定時間とし、受信強度が連続して判定値以下となる時間の判定を行うことにより、付帯と車両等が通行することによるフェージングの発生しやすい環境下でも誤って受信を中止することが無くなり、信号受信率が向上する。また、特にビット同期検出時にこうした手法を取った場合にはビット同期検

17

出が信号の遅延している限り受信可能であるため、フェージングにより受信を中止しないことにより信号受信率が向上する。

【0056】また、信号判定手段は、車両等の通行によるフェージングの単位時間当たりの発生頻度（時間）である、影響範囲（距離）と車両の移動速度の両と単位時間当たりの通行量の両以上の時間を判定時間とし、単位時間当たりの受信強度が判定値以下となる時間の判定を行うことにより、前記条件以上の頻度でフェージングが多発し、誤りやすい受信状態である場合に受信を中止すること、誤りやすい受信状態である場合に受信を中止することができ、省電力の効果が得られる。さらにビット同期検出時にこうした手法を取った場合にはビット同期が継続していても受信不能状態を早期に判定して受信を中止することができ、ランダム誤りによる信号受信率の低下に省電力化が図れる。

【0057】また信号判定手段は、フレーム同期信号とビット同期信号の符号間距離に相当するビット長以上の時間を判定時間とし、受信強度が連続して判定値以下となる時間の判定を行うことにより、フレーム同期信号検出中のバースト誤りによる誤判定の可能性を早期に判定し受信を中止するため、省電力化の実現と、誤った受信がなく通信信頼性が向上する。

【0058】また信号判定手段は、フレーム同期信号入力の判定において野暮されている誤りビット長に相当する時間を判定時間とし、受信強度が連続して判定値以下となる時間の判定を行うことにより、フレーム同期検出において誤りが野暮されている場合でもフレーム同期信号検出中のバースト誤りによる誤判定の可能性を早期に判定し受信を中止するため、省電力化の実現と、誤った受信がなく通信信頼性が向上する。

【0059】そしてまた、信号判定手段は、単位時間に対し、フレーム同期信号長と、フレーム同期信号とビット同期信号の符号間距離に相当するビット長の割合で求められる時間以上の時間を判定時間とし、受信強度が連続して判定値以下となる時間の判定を行うことにより、フレーム同期信号検出中のビット誤りによる誤判定の可能性を早期に判定し受信を中止するため、省電力化の実現と、誤った受信がなく通信信頼性が向上する。

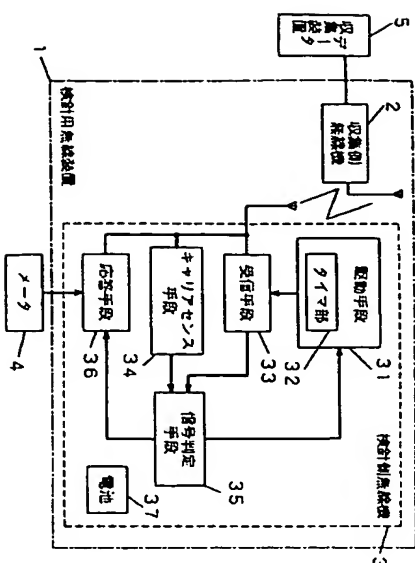
【0060】また、信号判定手段は、単位時間に対し、

18

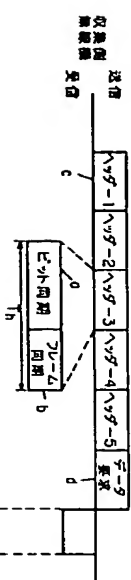
フレーム同期信号長と、フレーム同期信号入力の判定において符号されている誤りビット長の割合で求められる時間と相当する時間を判定時間とし、受信強度が連続して判定値以下となる時間の判定を行うことにより、フレーム同期検出において誤りが野暮されている場合でもフレーム同期信号検出中のビット誤りによる誤判定の可能性を早期に判定し受信を中止するため、省電力化の実現と、誤った受信がなく通信信頼性が向上する。

【図面の簡単な説明】

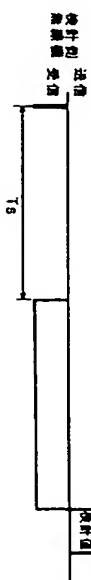
- 10 検針装置のプロック図
- 【図1】本発明の装置例1の無線装置における検針用ユニット
- 【図2】同装置の動作を説明するためのタイミングチャート
- 【図3】同装置の動作を説明するための別のタイミングチャート
- 【図4】同装置の信号判定手段の動作を説明する流れ図
- 【図5】本発明の装置例2の無線装置における動作を説明するためのタイミングチャート
- 【図6】同装置の信号判定手段の動作を説明する流れ図
- 【図7】本発明の装置例3の無線装置における動作を説明するためのタイミングチャート
- 【図8】同装置の信号判定手段の動作を説明する流れ図
- 【図9】本発明の装置例4の無線装置における信号判定手段の動作を説明する流れ図
- 【図10】従来の無線装置における信号判定手段の動作を説明する流れ図
- 【符号の説明】
- 1 検針用無線装置
- 2 受信側無線装置
- 3 検針側無線装置
- 4 メーカ
- 5 データ収集装置
- 31 駆動手段
- 32 タイマ部
- 33 受信手段
- 34 キャパシタンス手段
- 35 信号判定手段
- 36 応答手段



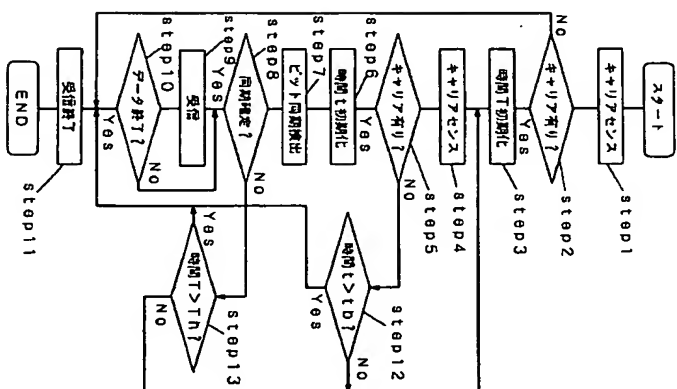
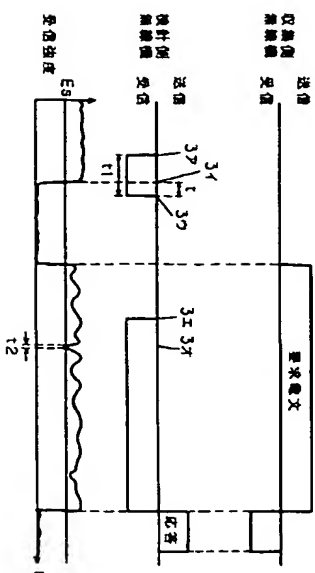
一一一



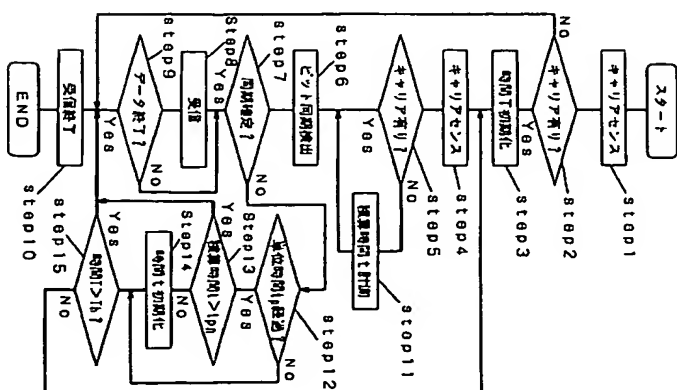
【图2】



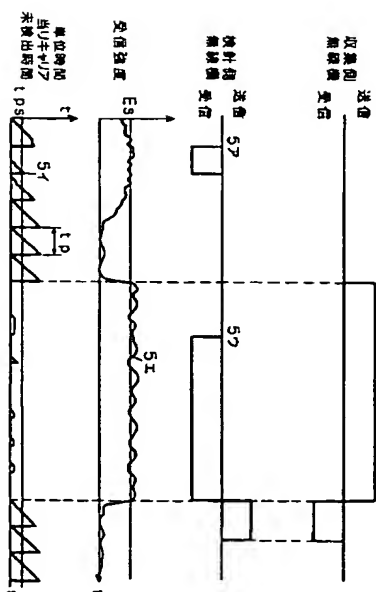
(3)



【図4】



[98]



[5]

